

職場探訪

全園児のうち、 約45%が外国籍の子ども

今回の職場探訪は、越前市の「上太田保育園」を訪問し、保育園の特徴や目指す保育園像などについて、保育士の皆さんにお話を伺いました。



上太田保育園の保育士の皆さん

―園の概要を教えてください。

越前市の武生中央公園西側に位置し、定員は90名で、現在80名が在籍、うち36名が外国籍の子どもでこれは約45%を占めます。職員数は正職員が園長以下10名、嘱託職員2名（通訳、調理員）、臨時職員15名（保育士、保育補助、外国籍補助・調理員）

―園の特徴について、聞かせてください。

外国籍の子どもたちを多く受け入れていることが大きな特徴だと思います。ほとんどはブラジルですが、フィリピン、ロシアの子どもたちもいます。近隣の大きな工場で働いている方が多いので、その通勤途中にお子さんを預けていく方が多いです。

―外国籍の方は最近増えてきましたか。

3年前に比べればかなり増えていきますね。やはり兄弟ができて入所という事で徐々に増えていっています。当時は20%程度でしたので、かなり高い数字だと思います。

―仕事をしていて苦労する点がありますか。

戸惑うところはやはり言葉が通じないというところです。一生懸命日本語で話しても、意思疎通ができないことが苦労する点です。しかし、コミュニケーションを取るという事を自分たちの中では一番大事にしています。特に、子どものための身振り手振りや顔の表情を気にするようにしています。今までの保育園がほとんど日本人のお子さんだったので、

たかないという子どもたちが多く、その子たちがいかに楽しく食べてもらえるかということを毎日考えています。保護者の方が一番心配されているのが食事をちゃんと摂れているのかということですね。一口でも食べようと毎日伝えていたら、少しずつ食べられるようになってくる子も出てきました。もちろん3〜4割ぐらいいしか食べられない子もいますが、食べられたことを認めてあげて、保護者の方にもこれだけ食べられましてたと伝えてあげると喜んでもらえます。

という文化ですので最初は戸惑いしました。気温がそこまで高くないのに下着一枚、洋服感覚で登園してくる子も居ましたし、そこまで寒くないのにいきなりトレーナー姿で登園してきたりともありました。日本の季節感にまだ慣れていない子も多いですね。それと、お父さんの協力が大きいですね。お父さんは休みになると「子どもと過ごしたいから今日は保育園お休みします」とおっしゃって休まれたりします。休みの日には子どもと二階に過ごしたいという思いがお父さんお母さんともに強くあります。疲れていても、夜勤明けでも子供を迎えにいらつしゃったりするところがすごいなと感じています。

―言葉の違いによる対応はどのようにしていますか。

2歳児から上のクラスには、通訳の方が1人ずついます。連絡帳などで訳してもらう際には、わたしたちはひらがなで書いてその下にポルトガル語で書いてもらったり、フィリピンの方ですとローマ字で書いたりしています。連絡帳の記入もなかなか大変ですね。玄関先のお知らせ表示は日本語とポルトガル語だけです。ね。フィリピン語の通訳の方はいないのですが、フィリピンの方はほしい

現状に対する驚きとコミュニケーションの取り方が最初の悩みでした。互いの言葉が通じないので、子どもたちが何か訴えても、可哀そうで申し訳無いという気持ちになります。子どもの言っている言葉が解らず他の先生の所に行ってしまうことがあるとそれが最初は凄く寂しく感じました。言葉が通じないということはお子もたちにとつて辛いだろうなと日々感じています。通訳の先生がいない時に、子どもたちが話しかけてきたら相槌を打ったり、子どもの表情を見て喜んでほしいと感じたら、表情や身振りで大きめに喜んだりするようにしています。また、年長くらいになると、家ではポルトガル語でも園では日本語がほとんどなので、両方の言葉が自然と吸収され



日本語が上手な方が多いですし、大丈夫です。

―保護者と園との共同での催し物がありますか。

七夕祭りや運動会の準備のお手伝いを保護者の方にさせていただいています。外国籍の保護者の中にも日本語が理解できて喋れる方もいるので、そういった方が通訳をしてくれて、やり方などを伝えてくれます。皆さんの協力で助かっています。

―子どもの成長を実感することはありますか。

自分の子どもが可愛すぎて、家庭で手を洗う事やズボンをはくことも親が全てしてしまうケースがあります。そうすると、保育園でズボンやズックを履く際、子どもは全てお任せ状態になります。そういうお子さんでも毎日の園での生活がだんだん慣れてくると、気持ちに余裕が出てきて、今までできなかったことができるようになる、それを発見したときの喜びは格別ですね。

―どのような保育園であったか。

子どもたちが、今日は保育園でこの遊びがしたいと思いを持って来て

ていって、わたしたちが理解できず困っていると「先生、こう言っているんだよ」と助けてくれるんです。すごく衝撃的でした。つまり理解できないことがあると子どもたちが、話を伝えてくれるので、すごく助かっています。

―文化の違いを実感することはありますか。

文化の違いを実感したのは、食事です。朝ご飯を食べる習慣があまり無いという事です。日本では3食しっかり食べるという習慣があります。朝、朝ご飯を食べない文化もあると教わりました。また、食事はお茶碗を持って食べるのが日本のマナーですが、ワンプレートで食事をする文化なので、お皿を持つこと自体がマナー違反になり、わたしたちとしてもどのように教えてよいか悩んだこともありました。また、家に帰るとスプーンを使用して食事をしています。何が保育園では箸を使っています。何となくわたしたちの中でも違和感があつて、保護者の方と相談し、家で使用しているのがスプーンであれば園でもスプーンで良いという風に、日本の文化を押し付けるのではなく他国の文化も取り入れながら取り組んでいます。

また、日本食、特に煮物などは食べ慣れていなくてなかなか口に入れないような保育園でありたいなと思います。保護者の方に対しては気軽に話ができるようになれば良いなと思います。朝、お母さんが仕事に行くときに泣いていると、「お母さん大丈夫ですよ」と送り出して、迎えに来た時には子どもたちがニコニコして「パパ、ママ」と歩み寄っていくと保護者の方も嬉しいと思います。朝は泣いても帰りはニコニコ帰れるようにわたしたちはそれを大事にしていきたいなと思います。「保育園楽しい？」と聞いて「楽しかった」と言つて子どもたちが帰れるように常に心がけていきたいです。あと、わたしたちがポルトガル語を話せるようになりますね(笑)

(編集部)野尻、中西

